

平成 25 年 12 月 18 日（金）

第 1 1 回 職業能力開発研究会記録

研究会実行委員会

1. 開催日時、場所

- ・日時：平成 25 年 12 月 18 日（水）16:15～17:30
- ・場所：職業能力開発総合大学校 1 号館大会議室

2. 発表者、参加者数

- ・発表者：遠藤龍司 氏（能力開発院 教授）、三田紀行 氏（能力開発院 准教授）
- ・講演題目「奥尻島の津波被害と復興」
- ・参加者数：36 名

3. 配布資料

- ・「奥尻島の津波被害と復興」パワーポイント資料

4. 開会挨拶、等

市川修准教授から開会の挨拶、遠藤先生および三田先生のご紹介、講演題目等の紹介があった。

5. 講演概要

パワーポイントおよび配付資料により講演が行われた。発表は大きく2つに構成されており、三田氏により、被災直後の1993年8月10日に実施された津波被害調査結果の概要が説明されたのち、遠藤氏により、被災から約20年後の2013年8月28,29日に実施された復興調査結果の概要が説明された。

・北海道南西沖地震の概要

震源の深さ、規模、各地の震度など地震の概要が説明された後、地震による被害概要について、建築工学的観点から説明された。被害は、地震そのものの震動による被害と、地震後に発生した津波による被害に大別され、被害箇所は、地盤－基礎－建物の連成系の被害であることが説明された。1981年を境に、古い基準で造られ建物の被害が著しく、構造部材および非構造部材の損傷が顕著であることが説明された。

・奥尻島の地震被害について

北海道南西沖地震により被害が集中した奥尻島の被害概要が説明された。

・復興過程と現状について

復興計画に関して、復興対策計画室の設置など国による対応が迅速であったことが説明され、その計画に基づき行われた復興内容および現状について、画像を用いて紹介された。具体的には、慰霊碑や復興記念館、フラットスラブによる人工地盤、各所に掲示された海拔表記、津波への対策がなされた校舎、新たに設置された水門、屋根で覆われた避難経路、高い防潮堤、津波の最高到達地点などである。

また現状に関して、多額な復興予算により町が支払う償還金の問題、分不相応な豪華な住宅建築による固定資産税や住宅ローンの問題、産業が育成されなかったことによる人口減少（若者の流出）の問題等の、多くの課題があることも説明された。

・復興のあり方について（まとめ）

最後に、2011年3月11日に発生した東日本大震災からの復興状況について、岩手県を例に、鶴住居地区が高い防潮堤を選択したのに対し、根浜地区は産業の育成を目的に、低い防潮堤とし海との共存を選択したことが説明された。まとめとして、将来を見据えた復興が必要であり、初期における国の強力的な推進力と住民が主体となった復興プランの検討が重要であることが説明された。さらにこれらを受けて、復興支援での産業育成のために、職業能力開発の分野において、我々の積極的関与の重要性が提案された。

6. 質疑応答

山本先生：津波対策の一環である防潮堤や人工地盤は、単に防潮堤を高くすることによって被害を防ごうとする試みには疑問がある。別の対策なども考えられるとは思うが、防潮堤について過去にどのよう

な議論がなされたのか。

三田先生：防潮堤ではないが、建築物の外構であるブロック塀に関して言うと、適切に施工されたブロック塀では、ブロック縁により津波の力を低減させることで建物への被害が低減されることが確認されている。

遠藤先生：防潮堤と人工地盤は分けて考える必要がある。防潮堤は高潮や津波の被害を防ぐことが目的であるが、人工地盤は、それ自身が避難用の地盤となっており避難経路を確保することが目的である。

・1月の予定：1/29(水) 能力開発セミナーから離職者訓練への展開事例（予定）

講演：基盤整備センター 開発部 訓練技法開発室 福永 卓己 氏

以上